

# 令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

## 【松戸歯学部】

### ①学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和3年6月1日	CHAmmit参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、松戸歯学部FD委員、学年教育主任、教務課員の計13名が対面にて、学部提案書について1時間30分程度、実現に向けて意見交換を行った。

### ②改善点について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
・オンラインと対面の完全なハイブリット化	○			新型コロナウイルスの蔓延が継続しており、断続的な対面授業の中止も生じている。状況を踏まえて令和3年度も対面授業と遠隔授業の併用を実施している。
・対面での出席者に対する加点制度			○	文部科学省は授業への出席は学生として当然のことと考えており、出席点を成績評価の直接の対象として含めないよう指導している。本学部も従前から各教員に対するシラバス作成上の注意事項の1つとして、出席点を成績評価に含めないよう指示している。よって、要望に応えることは困難である。 一方、学生の授業への参加度や貢献度は成績評価に加味する場合がある。学生がより主体的かつ積極的に授業へ参加することに期待したい。
・教員と学生間の交流の場を増やす		○		対面での行事が減り、交流の機会が減っていることは教職員も感じている。今後、オンラインでの交流なども含めて検討する。
・学生教員間での学修状況の理解の強化	○			令和3年度よりオンライン上での成績動向閲覧システムの提供を始めた。これを活用し、日々の学修の進捗状況及び理解度を把握してもらいたい。
・確認試験を増やす		○		今年度、本学部は対面授業が実施されているため、学生の学修状況は例年通り把握できており、現在の回数で十分だと感じている学生も一定数存在するため、全体のバランスを見ながら検討する。
・講義の日と実習の日を分ける		○		現在は対面での講義を実施しているため、実習のためだけに登校するということがなくなっているが、将来的には講義と実習を別日にすることも含めて検討する。
・配信、録画ミスのリカバリー	○			配信の中断や障害発生時には、随時対応している。（再度授業映像を録画し、Googleカレンダー上にアップロードするなど。）
・対面授業との差を縮めてほしい	○			教員のITスキルが向上し、配信ミスの対応もできているため、現在は差はなくなっている。
・先生方のITスキルの向上	○			操作方法のマニュアルの配布、講習会を開くなど行い、現在は操作ミスが減っている。
・書き込みやすい資料の作成をしてほしい	○			各教員へ配布資料に関するルール（学生に過度な負担とならない枚数や配色の工夫等を求める）を提示している。今後も適宜周知していく。
・予習→グループ学習をどうするか	○			現在は授業時間内に対面でのグループ学習を実施しているが、反転授業などで実施している。
・学生側のレスポンスが伝わらない	○			講義資料の最後に質問用のQRコードを提示したり、Googleフォームでの質問を受け付けている。

## 令和2年度 学生FD CHAmiT 学部提案書に基づく改善報告書

### ③今後の要望について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
・オンラインでの交流会の場を増やす		○		オンラインでの交流を今後、教職員で検討する。
・試験問題の厳格化（ミス無くす）	○			学部の教育力向上を目的とした各種講演会や講習会（ワークショップ）等を実施している。また、定期試験においては問題出題者、学務委員、学修サポート委員等が相互的に試験問題の精査（ブラッシュアップ）を行っている。
・職員と教員の連携強化	○			教員と職員の連絡を密にしているため、現在は強化されている。
・Wi-Fi関係の強化		○		現在、学生についてはパソコンまたはタブレットのみアクセス可能となっているため、スマートフォン等でのアクセスについて検討する。
・オンラインでのテスト（公平にできる仕組みで）			○	インターネットを含めた学修環境は学生個々で大きく異なるため、公平性を担保した上での試験の実施には課題がある。
・学際的（医歯薬系）な講義の受講をできるように	○			CHAmiT参加者が3年次生以下のため、まだカリキュラム上で経験していないが、4年次からは医師や他の施設の歯科医師など学外からの学際的な講義が多数準備されている
・オンラインの優秀授業賞を設ける		○		学生主体の評価になるため、学生会等が中心となって実現できるように、学生及び教職員で検討する。

### ④改善や要望を受けて、松戸歯学部から学生へのメッセージ

学生の皆さんがより良き歯科医療人となるために、歯科医学を真摯に学びたいという強い意思と情熱を感じることができました。

私たち教職員は、今回の協議を通じて、①教室内における座席位置の不均衡化改善、②Wi-Fi環境の強化によるタブレットの活用強化など、学修環境の改善に取り組んで参ります。

松戸歯学部では昨年度のコロナ禍中での経験を活かして、対面による授業が可能となり、授業のハイブリッド化が確立しています。しかし、今後アフターコロナに移行していく環境にあって、学生の皆さんにとってどのような講義形式が良いのか我々教職員は学生の皆さんと継続的な協議を重ねていきたいと考えています。